

研究協力をお願い

昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

最大握力 18kg 未満かつ開眼片脚起立時間 15 秒未満の転倒リスクについて

1. 研究の対象および研究対象期間

2015年1月から2020年12月の間に、昭和大学病院または昭和大学病院附属東病院の整形外科骨粗鬆症診に通院された75歳以上の女性の方

2. 研究目的・方法

わが国における要介護、要支援の状態を見ますと、運動器の障害（骨折や加齢による膝の痛み、腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷など、整形外科の関連疾患）に由来するものが25%を占めています。

その中でも大腿骨頸部骨折（太ももの付け根の骨折）は寝たきりの原因の一つとなっています。

そのため、転倒リスク評価を行うことは非常に重要です。転倒の要因として握力の低下や片足立ちができないなどは、すでに報告されていますが、その両者が合併した場合には、どのような転倒リスクになるのかは報告されていません。そこで「握力が低い、開眼片脚起立が十分にできない、あるいはその両方できない、それぞれどのような違いがあるのか」という疑問を抱きました。

今回の調査では、第1に左右の最大握力が18kg未満、第2に開眼片脚起立時間が左右どちらも15秒未満、第3に左右の最大握力が18kg未満と開眼片脚起立時間が左右どちらも15秒未満を同時に満たす、それぞれの特徴を調査します。

【方法】

昭和大学病院または昭和大学病院附属東病院の整形外科骨粗鬆症診に通院された75歳以上の女性を調査対象とします。

調査項目は、握力、開眼片脚起立時間、転倒スコア（13点中6点以上で易転倒）、骨密度（腰椎、大腿骨、橈骨）、骨格筋量指数（Skeletal Muscle Mass Index: SMI）のデータを使用します。骨密度とSMIはHologic社製のDiscoveryを使用して検査が行われているので、そのデータを利用します。統計ソフトはStat Flex 7.0を使用し、統計解析は、Mann-Whitney U検定、多重ロジスティック回帰分析を行う予定です。

研究期間

「医学研究科 人を対象とする研究に関する倫理委員会」承認後、病院長の研究実施許可を得てから 2022 年 3 月 31 日まで。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2015 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までに昭和大学病院整形外科または昭和大学病院附属東病院整形外科において骨粗鬆症の経過観察のために受診している患者さんの診療録の中から、握力測定、開眼片脚起立時間の測定、転倒スコアが聴取されている外来患者さんのデータを用います。患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）および検査項目（握力、開眼片脚起立時間、転倒スコア（13 点中 6 点以上で易転倒）、骨密度（腰椎、大腿骨、橈骨）、骨格筋量指数（Skeletal Muscle Mass Index : SMI））を調査項目とします。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院整形外科 氏名：永井隆士

住所：142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19 電話番号：03-3784-8000(代表)

研究責任者：永井隆士